

## 綜 說

### 皮膚結核ノ病理ト臨牀

(第十回日本結核病學會特別講演)

京都帝國大學教授 醫學博士 松 本 信 一

皮膚ニ發現スル結核性疾患ハ、ソノ型像ノ多種ナルコト他ノ臟器ノソレニ於ケルノ比デハナイ。コレ皮膚結核ガ結核病ノ研究上ニ價値アル點デアラウ。コノ型像ヲ分類シ正確ナ系統ヲ立テルコトハ、診斷學上ニ意義ヲ有スルノミナラズ結核ノ病理ノ考察ニ資スルコトコロガ多イ故ニ皮膚病學上ニ於ケル重要ナル仕事ノ一ツデアル。

結核性皮膚疾患トハ如何ナルモノヲ指スカ。ソレハ皮膚病學ニ於テヤカマシイ問題デアル。シカモ、コノ疑問ガ明カデナイト結核性皮膚病ノ範圍ガ決定サレナイ。ソコデ

(1) 罹患組織内ニ鏡查的、培養又ハ動物試験ニヨリ結核菌ノ證明セラレルコト (2) 病竈 — 「ツベルクリン」反應ガ陽性ナルコト (3) 組織學的像ノ特異ナルコト (4) 結核性疾患ト同伴シ易キコトナドヲ擧ゲラレル。一見妥當ナル定義デアルカノ如クナレドモ少シク吟味スレバ何レノ項目ニツイテモ幾多ノ疑問ガ生レル。

皮膚結核ニハ皮膚結核ト結核疹トガ分タレル。

(1) 結核ニハ (a) 結核性潰瘍 (b) 粟粒性結核 (c) 尋常性狼瘡 (d) 疣狀結核 (e) 腺病性潰瘍 (f) 結核性淋巴管炎 (g) 鷄型菌結核ナドノ型ガアリ、(2) 結核疹ニハ (a) 硬結性紅斑 (b) 丘疹壞疽性結核疹 (c) 顔面粟粒性播種性狼瘡 (d) 腺病性苔癬ナドノ像ヲ見ル(寫眞及蠟製模型供覽)。外ニ結核性未確定ナル數種ノ皮膚疾患ガアル。

之ヲ要スルニ皮膚ノ結核症ハ皮膚學的ニ多種多様ノモノガアリ、シカモ皮膚病學者ハコノ型ヲ分類スルコトニ得意ニシテ嗜味ヲ持チ、コレガ

爲メニ診斷法ハ精練セラレ皮膚學的所見ガ顯微鏡的乃至爾餘ノ診斷法ニモ勝ツテ役立つモノニサヘナルワケデアルガ、他方ニハ往々勝手ナ命名ガ施サレ、種々ノ名前ガ同一病型ヲ指シ或ハ諸種ノ病像ガ一ツノ名ニ包括セラレルヤウナ煩雜ヲ招イテキル。

尋常性狼瘡ハ上述ノ意味カラ無論皮膚結核中ノ定型ナルモノトスベキデアル、病竈ノ組織像ハ結核ニ定型ノ變化ヲ呈シ、結核菌ガ證明セラレル。只乾酪樣變性ヲ缺如スルノ理由デ結核性ナルコトニ疑ヲ插マレタ時代モアル。

皮膚結核ニ對シ所謂結核疹ナル一群ノ疾患ガアリ、此病竈ニハ生活結核菌ガ發見セラレ難イ一拘ラズ結核性皮膚疾患ヲ以テ目スルニ躊躇スル者ハ少イ。

凍瘡樣狼瘡、環狀肉芽腫、良性類肉腫ナドノ結核性ハ疑ハレル、紅斑性狼瘡ニツイテモ亦同シコトガイヘル、結節性紅斑ト稱セラレルモノ、一部ハバザン氏硬結性紅斑ト見ルベキデアラウ。多形滲出性紅斑ハ近時、結核性ナリト唱フル人モアルガ、マタ一般ニ承認セラル、ニ至ラナイ。

レーウエンシコタインガ近時各種ノ疾患ノ流血中ヨリ結核菌ヲ培養シタルコトハ皮膚結核ノ病理ニ大ナル光明ヲ與ヘタモノトイフベキデアルガ、追試者ノ成績ハ必シモ一致セズ、又流血中ノ結核菌ト皮膚變化トノ關係ヲ云々スルハ注意ヲ要スル(略)。

同ジク結核菌又ハソノ毒素ニ因スル疾患ニシテ何故諸種ナル病像ガ存スルカ、コレ興味アル事實デアルガ、ソノ解説ハ必シモ易シトシナイ。

抑モ結核菌感染ヲ蒙リタル個體ノ結核菌侵襲ニ對スル反應ハ、コレヲ然ラザル者ニ比シテ著シイ差異ヲ示スコトハ、コッホノ研究ニヨリ明ニセラレタ事實デアル。結核罹患者が結核菌ニ對シテ有スル抵抗性ハコレヲ眞ノ免疫ト稱スベキヤ否ヤハ議論ノアルトコロデアルガ、免疫ノ根本義ニ矛盾スルモノデハナイ。

結核ニ感染セザル乳兒ノ皮膚ガ若シ夥多ノ結核菌ニ襲ハレル時ハ恰モ「モルモット」ノ接種性結核性潰瘍ニ比スベキ變化ヲ呈スル。コノコトハ血行性ニ菌ノ侵襲ヲ受クル場合ニモ適用シ得ルコトハ動物試験及臨牀の經驗カラ推定セラレル。狼瘡ハ相當強キ免疫性ヲ有スル者ニ發スル結核竈デアラウ。結核疹ハ強キ「アレルギー」ヲ有スル者ニ於テ菌血症ノ結果トシテ發生スルモノト考ヘテヨカラウ。コノ考テ正シイトスレバ狼瘡モ結核疹モ強チ絶對的ノ差異アルモノデハナイ、實ニ兩者ノ合併モ亦見ラレルコトデアル。

免疫性ニハ強弱ノ差ガアリ、菌ノ侵襲ニハ多寡ガアリ、ソノ毒力ニモ種々ノモノガアル、免疫性弱キ者ニ夥多ノ菌ガ侵襲スルトキハ粟粒性結核乃至ハ結核性潰瘍ヲ來シ、免疫ノ強キ個體ニ少數菌ノ侵襲スルトキハ結核疹、腺病性苔癬ナドノ像ニナリ、兩者ノ中間ニ位スル場合ハ狼瘡トカ腺病性潰瘍トカイフ型ニナルモノデナカラウカ、勿論免疫狀況ハ同一人ニ於テ一定不變ノモノデハナイカラ、時ニ應ジテ病像モ動搖スルコトヲ免レ得マイ。カク考ヘレバ皮膚結核ノ、病型ニ諸多ノモノアルコトガ幾分明ニナル。動物試験ハ人間皮膚結核ノ病理ヲ考察スルニ好

簡ノ材料ヲ提供スル、適當ナル動物ニ適當ノ菌接種ヲ施スコトニヨリテ皮膚結核ノ病型ヲ或程度マデ模倣的ニ形成セシメ得ル。

皮膚結核ハ種々ノ素因ニヨリ影響セラレル、體質、ソレハ遺傳性體質即チ家族性ナルコトモアラウ。人種の素因モ肯定セラレル。年齢ノ關係ハ統計ノ明ニ示ス所デアル。狼瘡ノ如キテ例トスレバ若年ニ初マリ30歳位カラズツト減少スル。皮膚結核ト内部結核トノ間ニモ幾分ノ關係が見ラレル。皮膚ガ免疫上ニ特殊ノ地位ヲ占メルラシイ事實ハ他ニモ往々例ガアル。

菌型ニツイテハ人型菌ガ重ナルモノトセラレ、鳥型菌結核ハ極メテ稀ナモノニ屬スル。

結核ト黴毒トハ臨牀的ニ近似ノ像ヲ呈スルハ周知ノコトデアルガ、實驗的黴毒ノ研究ハマタ實驗的結核ノ參考ニ資スベキ若干ノ興味アル所見ヲ提供スル。

皮膚ニ於ケル結核菌再接種試験ニ關シコッホノ唱フル所ノ所謂コッホ氏皮膚反應ハ勿論事實トシテ肯定セラレルガ、ソハ總テノ結核菌ニ必發ノ現象デハナク、ソレガ型通りニ陽性ニ出ルタメーハ一定ノ條件ヲ必要トスル。即チレワンドスキーノ追試確定ニ拘ラス、コレニ關シテハ將來ナホ大ナル修正ヲ加フル要ヲ認メル。

家兎ニ於ケル實驗的黴毒ニアリテ、初期局所病竈ガ再感染及重感染ニツイテ特殊再燃反應ヲ呈スルコトハ余等ノ既ニ報告セルトコロデアルガ、「モルモット」ノ接種性結核ニ於テモ初期病竈ガ再接種後一定時日ヲ經テ炎症性反應ヲ呈スルコトが見ラレル。